



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

# しらこぼと

## 2007.7

No. 279

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



# よかったあ〜！、三宅島！！

今月号は4月27日、28日、29日に実施された支部主催「東京都・三宅島探鳥会」に参加した皆さんからの報告です。最初に、島に到着してからその日の夜まで、次に翌日の早朝から島を離れるまで、更に復路での海鳥の様子、そして宿の思い出に分けて4人の方に語っていただきます。

## ● 28日の一日 星 進（入間市）

船は27日、定刻の22時半に出港。翌28日の早朝5時に三池港に到着。村営バスに乗り大路池バス停で降車、5分ほど歩き今宵の宿「新鼻荘(につばなそう)」に着く。

食堂で各自持参の朝食。亜種オーストンヤマガラやシジュウカラ、スズメが庭の餌台に次々とやって来る。食後早速、憧れの鳥を探しに出かけた。

大路池バス停から池に下る。ハウチャクソウの白い花が目立つ。路上で餌を採るアカコッコを見る。7時頃、池の棧橋に到着。常緑樹に囲まれた池は神秘的で、遠くに噴煙を上げる雄山がそびえる。山頂部は枯れ木が白骨のようで噴火時のすごさを忍ばせる。対岸水際の木にササゴイ、水辺にダイサギ、チュウサギ。オオバンもいた。時々アオバトに似たウウオーの鳴き声、姿は見えない。

先ほどの車道まで戻る。電線にツバメ、聞き慣れた囀りはと見ればホオジロ。樹間にアカコッコのみ。池の北岸の休憩舎でひと休み。他にもバーダーが数人いた。喧嘩のない心地よさを感じる。

休憩後は車道に戻る。ミサゴが遠くの枯れ木に白い腹を見せて止まる。ツバメに混じってイワツバメも飛翔する。土手にはカジイチ



アカコッコ

ゴの赤い実も見える。おしゃべりしたり見た鳥を確認したりしながらのんびり歩き、「自然ふれあいセンターアカコッコ館」に10時前に入る。

山本レンジャーからレクチャーを受ける。フィーダーにやって来るアカコッコ、オーストンヤマガラ、シジュウカラなどを観察する。外に出て、水場に降りるシチトウメジロやイジマムシクイも観察する。11時頃、アカコッコ館付近で昼食を摂る。

昼食後はもう一度大路池付近で鳥見。車道を時計回りで回る者と池に降りて反時計回りで見て行く人たちに分かれた。車道組は途中でカラスバトを確認。他の人たちにも携帯で連絡し、皆さん確認できた。

この後、もう一度アカコッコ館へ戻る。イジマムシクイのオリーブ色のスマートな体型をじっくり見る。シチトウメジロも嘴が幾分長いのが確認できた。オーストンヤマガラやシジュウカラにアルミの足環をつけたのも見つける。

伊豆岬行きは強風が吹き出し中止とし、夕方までの時間は自由行動となった。私は、またアカコッコ館付近の水場に行き、シチトウメジロや、同じ個体でも水浴びで羽毛が乱れ、白い眉斑が見えたり薄くなったりするイジマムシクイを飽かず眺める。軽やかにホッピングしてアカコッコの雌雄が現れるのも見飽きない。宿に引き上げる直前で大粒の雨となり、傘を差して急ぎ足で戻った。

夕食前の鳥合わせで、今日は43種を確認できたことが分かった。終日、硫黄の臭いはほとんど気にならずガスマスクのことも忘れていた。

## ● 29日、乗船まで 小林正義（久喜市）

午前3時過ぎに部屋を抜け出し庭でタバコを吸いながらアオバズクの鳴き交わしの声を

楽しむ。至福の一時だ。港への出迎えに向かう車の音が聞こえる頃にはカラスバトやアカココの声で賑やかになる。

そうなれば、ムズムズしちゃって皆が揃うのを待ちきれず数人で早朝探鳥へと向かう。まずはアカココ館駐車場から道を隔てた木の上にコマドリを発見してしばらく観察、さらにオオヨシキリの声を聴く。

朝食の時間が近づき宿を目指すも、大路池バス停付近で、かなり近いと思われるコマドリの声を聞けば、自然に足が止まる。梢で囀るコマドリを見つけて、飛び去ってしまうまで観察できた。うーん大満足。

朝食後はガクアジサイ、シチトウスミレの咲く道を徒歩で長太郎池へ向かうが、海が静か過ぎるのか鳥の姿は少ない。三宅高校脇を砂防ダムまで続く道を、コマドリたちの囀りを聴きながら歩く。砂防ダムの上空にはノスリが舞っていた。残った時間を惜しむかのようにバスを利用してアカココ館周辺へ戻ってまた観察。

宿で昼食(カレーライス、くさや付き)後、港まで送っていただき船を待つ間も観察に充てる。

### ● 船上探鳥 榎本秀和(鴻巣市)

私は、1988年から2000年の噴火直前まで、三宅島探鳥会のリーダーを12回担当してきた。噴火以降、探鳥会は休止となっていたが、本年は実に7年ぶりの再開となった。この間、2002年6月に長年親しんできた定期客船「すとれちあ丸」がリタイアしたため、今回は「かめりあ丸」での航海である。

三宅島はバードウォッチャー憧れのバードアイランドであるが、島の野鳥は一度行けばほとんどを見ることが出来る。何度も島へ通う事の真の魅力は、帰りの船上からの海鳥ウォッチングではあるまいか。何が出るか分からない、というおもしろさなのだ。



ただ、今回の帰りの海は静かすぎた。波が穏やかで、ミズナギドリ類の、波を難いで滑翔する勇壮な姿を見ることはできなかった。しかし、これまでに経験したことがないほどオオミズナギドリの数は多かった。三宅島から、東京湾に至るまで、群れはずっと途切れることなく、まるで川のように続いた。大きなラフト(海上に浮かぶ群れ)もいたところで見られた。今回の海鳥に関しては、これで上出来としよう。

実は、今回の船上探鳥での一番の収穫はクジラとの遭遇である。潮を高く噴き上げながら海面を行く複数頭の群れが見られたことだ。海中深く潜る瞬間に海上に現れた尾びれの大きさがいつまでも心に残る。

### ● 民宿「ふるさと」は 内藤義雄(鴻巣市)

民宿「ふるさと」。懐かしい宿ですね。2000年の噴火で三宅島探鳥会が中断するまで、当支部が長年にわたりお世話になった定宿です。その「ふるさと」が、既に宿の看板を下ろしている事を聞きました。当然ご高齢になっているはずだし、島を離れての避難の生活も重なって元気が損なわれてのことかな、など思ったりしたので、探鳥会に参加できたら訪ねてみようと思いました。

初めて宿泊したのは89年で、もう18年前のことです。当時、宿のご夫妻には4~5歳のお孫さんがいました。

28日の夕方に訪ねることができました。車庫には「もみじマーク」の軽自動車がありました。道路からは高いところにある建屋は以

前のままのようで、被害を受けてないように見受けました。いささか不安な気持ちを抱きながら玄関を開けますと、奥さんが夕餉の支度でしょうか、サトイモの皮を剥いていました。きれいに片付いている部屋は、部屋の名札が付いたままでした。一瞬タイムスリップしたような感覚になり、薄れていた以前のことを思い起こさせました。その間にご主人も奥から出てきました。

かつてご主人が海で獲ってきた新鮮な魚や海の幸がテーブルに並んだこと、くさやの加工工場にいったことなどを思い出しながら、初めて食べたご赦免料理の美味しかった話、裏庭から掘ってもらったアシタバの株や種が育ち、おかげで毎年食べていることの話などもできました。当時担当のリーダーであったKさんの話も出まして、小さなお孫さんが「アンパンマン」と呼んだのを、奥さんは本当に失礼なことを言っちゃいましてと詫びていました。その孫も今は大学3年生になったんで



イイジマムシクイ

すよと目を細くしていました。

ご夫妻とも高齢ながらお元気な様子で、当支部が長年に渡り定宿にしてくれたことを感謝していました。奥さんに「今お泊りの宿はとてもいい宿です。是非これからも来て泊ってやってください。埼玉の皆さんに元気であることをよろしくお伝えください……」と見送られ、急に激しく降り始めた雨の中「ふるさと」を後にしました。

(写真・海老原美夫)

今回の観察種 (55 種) 藤掛保司 (川越市) 作成

No.	野鳥名	No.	野鳥名	No.	野鳥名
1	オオミズナギドリ	20	オオバン	39	アカコッコ
2	アカアシミズナギドリ	21	ムナグロ	40	ウグイス
3	ハイイロミズナギドリ	22	セグロカモメ	41	オオヨシキリ
4	ハシボソミズナギドリ	23	ウミネコ	42	イイジマムシクイ
5	ウミウ	24	ウミスズメ	43	キビタキ
6	ヒメウ	25	カラスバト	44	オオルリ
7	ゴイサギ	26	キジバト	45	ヤマガラ
8	ササゴイ	27	アオバズク	46	シジュウカラ
9	ダイサギ	28	ヒメアマツバメ	47	メジロ
10	チュウサギ	29	アマツバメ	48	ホオジロ
11	アオサギ	30	コゲラ	49	アオジ
12	ウミアイサ	31	ツバメ	50	アトリ
13	ミサゴ	32	イワツバメ	51	カワラヒワ
14	トビ	33	ビンズイ	52	イカル
15	ノスリ	34	ヒヨドリ	53	スズメ
16	ハヤブサ	35	モズ	54	コムクドリ
17	コジュケイ	36	ミソサザイ	55	ハシブトガラス
18	キジ	37	コマドリ		
19	バン	38	イソヒヨドリ		

## もしかしたら温暖化の影響？

本誌 2007 年 5 月号で事例情報をお寄せくださいと呼びかけた件について、同月末までに寄せられた情報と、本誌の誌面から読み取れた情報は、次の通りでした。

- 1, 2007 年 1 月 16 日、さいたま市桜区秋ヶ瀬公園において、サンショウクイ 2 羽が観察されたとのこと。夏鳥であるサンショウクイが冬に観察されたのは、暖冬のせいではないでしょうか。
- 2, 2007 年 1 月 4 日、三郷市駒形の新三郷浄水場内で 12 月に孵化したと思われるカイツブリの幼鳥 2 羽が観察されました。暖冬のせいではないでしょうか。
- 3, 2006 年 7 月、さいたま市桜区でシロハラクイナの繁殖が確認されました。温暖化の影響で、生息域が変化しているのでしょうか。
- 4, 2006/2007 年の冬、さいたま市桜区でシロハラクイナが越冬しました。暖冬の影響でしょうか。
- 5, シロハラクイナの繁殖時期につき、2006 年は 6 月になってから繁殖行動が観察されましたが、2007 年は 5 月初旬から鳴き交わしなどが観察されています。温暖化の影響で早くなっているのでしょうか。
- 6, アリスイは餌とするアリの生態の関係で、気温 0℃以下が続くと南に移動します。2006/2007 年の冬、さいたま市桜区秋ヶ瀬公園で、複数のアリスイが越冬したのは、



カイツブリ(大澤 祐)

注：写真は本文と関係ありません

## 夏鳥調査はがき同封します

2007 年 5 月 10 日から 7 月 10 日までの間に埼玉県内のある一定の範囲で観察した鳥種名を記入して、申し訳ありませんが切手を貼り、お送りください。県内の野鳥の様子を知るための大切な調査です。

今回の注目種はコアジサシ。詳しくは本誌 5 月号 4 ページをご覧ください。 **(研究部)**

暖冬のせいでしょうか。

- 7, さいたま市浦和区で毎年観察しているツミが、2007 年の繁殖プロセスは例年より早いように思います。
- 8, 2007 年 1 月末ごろから 2 月にかけて、吉川市中曽根地区で数羽のムナグロを観察。ここで冬季に観察されたのは初めてです。

そのほか、

- 1, 2006/2007 の冬、県内各所にウソが多数飛来しましたが、これは直接的には通常の越冬地の餌不足が原因と考えられます。通常の越冬地の餌不足が、温暖化の影響による天候変化のせいかどうかは、判断できません。
- 2, 蓮田市南部とさいたま市北部で長年春のシギ・チドリ類の渡りを観察している方から、2002 年と 2007 年の観察数が特に少なく、2004 年と 2005 年は特に多い。これは、千葉県東方沖地震、新潟中越地震、スマトラ島巨大津波、大型台風など地球環境の激変と何らかの関連があるのでは、というご意見が寄せられました。これはご本人も「直接結びつける証拠はない」と言われる通り、今のところ、温暖化との何らかの関連付けをする筋道が見当たりません。

ということで、現在まで「もしかしたら」情報は 8 件寄せられ、

生息域の変化に関するもの 5 件、

生態(繁殖時期)の変化に関するもの 3 件という内容でした。

引き続き、情報お待ちしております。

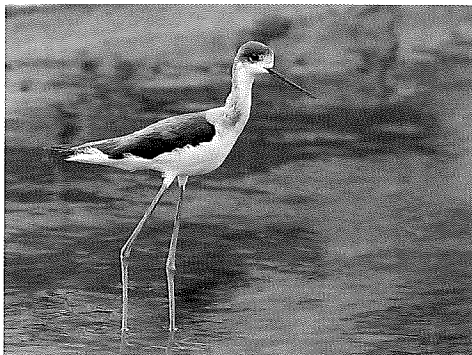
**(編集部)**



## 野鳥情報

**さいたま市見沼区大谷環境広場** ◇2月19日、コチドリ4羽、アイリングくつきり（鈴木紀雄）。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇3月1日、チョウゲンボウが鉄塔にとまる。アキニレの種子をマヒワ4羽が食べていた。3月4日、アカゲラ1羽、ベニマシコ3羽、ルリビタキ♀1羽など。ウグイスがさえずっていた。3月10日、「去年と同じ所にきているよ」との連絡をもらい、キツタの黒い実を食べているヒレンジャク1羽を確認。その他にヒガラ1羽、マヒワ5～6羽など。3月11日、ウソ♀4羽、マヒワ♂5羽♀2羽。マヒワは地面で採餌していた。トラツグミが一瞬、道を飛んで横切った。3月12日、ヒレンジャク1羽確認。キツタの実を食べにヒヨドリ多数、ツグミ、アカハラもやって来た。カヤクグリの声がしたが、姿見えず。ウソ♀5羽がイノコヅチの種子を食べていた。数メートルに近寄っても逃げず。他にアカゲラ♀1羽がドラミング。元荒川では、イソシギが水浴び。3月14日、ジョウビタキ♀1羽、トラツグミ1羽など。3月15日、カルガモ、コガモ、セグロカモメ、モズ、シロハラ、ツグミ、ウグイス（さえずり）、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、オオジュリン、シメ、ウソ♀1羽、マヒワ♂1羽（ぐぜり）、ヒレンジャク1羽、ジョウビタキ♀1羽、タヒバリ、



セイタカシギ(長野誠治)

カケスなど。3月20日、久しぶりにベニマシコ♀1羽を確認。セグロカモメ成鳥もまだ元荒川に来ている（鈴木紀雄）。

**さいたま市岩槻区鹿室、白岡町太田新井、春日部市内牧の境界辺り** ◇3月10日午後1時20分～3時20分頃まで、水と緑のふれあいロードの起点周辺でツグミ、シジュウカラ、地鳴きとさえずり、キジバト、アオジ、カシラダカ、ウグイス、カワラヒワ、ハシブトガラス、カケス、キジ、「ケーン」と甲高い声。オオタカ成鳥1羽、旋回時、翼下面の白さはきれいであった。ミヤマガラス、近くの送電線鉄塔のてっぺんに2羽。「ガラララ」とのしわがれ声を発す。アトリ、今日は最多時22羽の群れを確認。通りかかった地元のお年寄りが50羽いると言っていた。採餌場所、止まり木はだいたい決まっている。「キュキュキュキュキュキュ・・・」と鳴きながら群れで飛び交っていた。シメ1羽、雑木林の梢にじっと止まって動かず、昼休み？ カワセミ1羽、「ツイー」と鋭い声を発しながら、目前を通過。まさに翡翠だ。ウソ♂2羽♀1羽、アカウソだった。前回3月4日のときは2羽だった。今回も同じ木の新芽を啄む。セグロセキレイ、ヒヨドリ、コサギ（石川敏男）。

**さいたま市桜区秋ヶ瀬公園** ◇3月7日、子供の森でヤドリギに群がるヒレンジャク約10羽、カメラマン多数（鈴木紀雄）。

**さいたま市桜区大久保農耕地** ◇3月15日、B区で以前シロハラクイナがいたところの近くにウズラが1羽いた。砂利道で砂浴びをした後、草のある方（田んぼ側）へ歩いていった。他にタヒバリ、シメ、オオジュリン数羽、ツグミ、カワラヒワ、カシラダカが多数など（井内寛裕）。

**久喜市久喜菖蒲公園** ◇2月21日、昭和沼でキンクロハジロの群れ中にスズガモ♂1羽。ミコアイサ♀2羽など（鈴木紀雄）。

**菖蒲町大崎** ◇2月21日、菖蒲中学校裏手の田んぼでミヤマガラス約100羽の群れ。地上や電線に約30羽のニュウナイスズメが散在。電線にずらっと並んでいるのはカワラ

ヒワの場合が多く、生存圧力を受けている模様（鈴木紀雄）。

**蓮田市黒浜東埼玉病院** ◇2月24日、アカハラ1羽、シロハラ3羽、ルリビタキ♂1羽♀2羽、キジ♂1羽。2月27日、アカゲラ1羽、コゲラ2羽、ヤマガラ3羽、シロハラ5羽、アカハラ2羽、オオタカ1羽。3月2日、カケス約10羽、シロハラ5羽十、ルリビタキ2羽十、コジュケイ5羽十、キジ♀1羽など。冬鳥の数が減り、カシラダカは大群がいなくなり、5～6羽になった。3月9日、シメ、カケス、コジュケイ、ウグイス、コゲラ、シロハラ、ヤマガラ3羽、アオゲラ♂1羽など。久々にアオゲラを見た。赤とグリーンがとても美しかった。3月12日、カケス、ウグイス、ジョウビタキ、シロハラ、コジュケイ、アカゲラ♂1羽（本多己秀）。◇2月28日、か細い金属的な声の主を見つけたら、ヒガラ4羽の小群だった。枝にぶら下がったり、活発に動き回っていた。3月8日、頭上の木でアカゲラ♂1羽（鈴木紀雄）。

**蓮田市黒浜** ◇3月3日夕刻、上沼のほとりにいたら、対岸のアシ原の中からクイナの声、じっとしていたら水際に出てきて採餌しでしたが、上空をオオタカが飛んだら、引っ込んでしまった。木にツグミ約40羽の群れがとまっていた。そろそろ北帰行の気配か。3月5日、強風の中、上沼上空をセグロカモメ成鳥が悠々と飛んでいた。3月8日、田んぼの用水溝の中でクサシギ、羽繕いをしていた（鈴木紀雄）。

**蓮田市蓮田** ◇3月10日、根ヶ谷戸公園でメジロ、ウグイス、ツグミ、カワラヒワ、シジュウカラ、ムクドリ、キジバト。ツグミの数が減り、ウグイスの「ホーホケキョ」がうまくなり、カワラヒワは「ジュイーン」と鳴きだした（本多己秀）。

**春日部市内牧公園** ◇3月10日午後3時25分～4時15分頃、トラクターでの田起こしが始まっており、そこにムクドリ、ツグミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリが集まって採餌。1羽のムクドリが長いミズをくわえていた。探鳥会でいつも見か

ける細い水路では、タシギが6羽集まっており、追ったり追われたり。ここで6羽もいるなんて珍しい（石川敏男）。◇3月15日、宮代側の林縁の堀でカワセミ1羽。カヤクグリの声が2ヶ所で聞こえたが、姿確認できず（鈴木紀雄）。

**川口市西新宿** ◇3月17日、ウソ♀各1羽、鮮やかに咲いた桃の花に。美味しい食べ物にやっとありつけた感じだ（須崎聡）。

**越谷市県民健康福祉村公園** ◇3月22日、ユリカモメ約100羽、ハシビロガモ、コガモ、マガモ、バン、オオバン、ゴイサギなど（鈴木紀雄）。

**桶川市下日出谷** ◇3月22日午前7時50分、農家の屋敷林でツミの声を聞く。3月24日午前7時、妻といつものウォーキングコースを歩いていたら、農家の庭先でアトリ3羽、シメ、ジョウビタキ♂各1羽確認した。アトリは桶川では久しぶりです（立岩恒久）。

**桶川市若宮** ◇3月23日午前9時30分、ツミが上空を「キキキキ」と鳴きながらドラバトを追いかけていた（立岩恒久）。

**北本市石戸宿城ヶ谷堤** ◇3月23日午前11時50分、キレンジャク1羽、柳の新芽を長い間食べていた、大勢のカメラマンが集まっていた（立岩恒久）。

**東松山市田木** ◇3月21日午前10時頃、上空サシバ4羽飛来、今季の初認（澤井清）。

**深谷市工場敷地内** ◇3月22日、始業前の体操中、眼の前の樹にニュウナイスズメ♂1羽が飛来。もう明るい栗色の夏羽になっていた（新井巖）。

**狭山市入間川** ◇3月24日、シマアジ♂1羽。久しぶりの飛来（久保田忠資）。

#### 表紙の写真

#### キツツキ目キツツキ科アオゲラ属アオゲラ

5月24日日高市巾着田で撮影しました。2羽がお互いに大きく首を振って、まるでダンスでもしているように、樹から樹へ飛び交っていました。とても、争っているように見えませんが、2羽とも額まで赤いので、オス同士の縄張り争いのようです。

小原貞子（戸田市）



## 行事案内



ヨシゴイ(又部綱仁)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章した担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください

### 群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月1日(日)

集合：午前8時25分、東武日光線板倉東洋大前駅、または午前8時40分、思い出橋駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:20→春日部7:35→栗橋7:55→板倉東洋大前8:16着。

JR宇都宮線大宮7:07→栗橋7:41着で東武日光線乗り換え。

解散：午前11時30分ごろ、谷中湖北ブロック展望台近くの藤棚。

担当：内田、橋口、玉井、中里、田邊、四分一、植平、鬼塚

見どころ：アシ原浄化ゾーンを中心に、定番オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、ヨシゴイ、ササゴイ、カッコウの姿とさえずりをじっくりと観察します。ヨ



コサギ(落合英二)

シゴイは意外と小さいですよ。蒸し暑い季節です。帽子と飲み物、汗拭き、雨具も忘れずに。

ご注意：集合場所は柳生駅ではなく、板倉東洋大前駅です。間違えないようお願いいたします。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月8日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:49発に乗車。

担当：後藤、島田、和田、森本、中里、大澤、倉崎、高橋(ふ)、栗原、千島、藤田(裕)、飛田、新井(巖)、鵜飼

見どころ：梅雨明けが待たれるこの時期、大麻生ではオオヨシキリをはじめ多くの野鳥が子育てのため奮闘しています。幼鳥や若鳥たちも元気な姿を見せてくれるでしょう。カルガモやカイツブリの子連れの姿は本当にかわいらしいですよ。今回はそういった姿を探してみましよう。

### 滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月8日(日)

集合：午前9時45分、森林公園南入り口前。

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:25発バスで終点下車。

費用：入園料 400 円(子供 80 円)



担当：佐久間、岡安、藤掛、内藤、大坂、青山、喜多、山田(義)、高橋(優)、藤澤、中村(豊)

見どころ：長かった梅雨も終わりに近づき、蒸し暑さが一段と増してきました。風通しの良いところを、鳥たちや国蝶のオオムラサキ、林間の草花を見ながら、山田大沼まで歩きましょう。

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月15日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺(周)、若林、小菅、赤堀、新部、青木、宇野澤、増田、須崎

見どころ：季節は間違いなく巡って、夏の日差しが見沼田んぼに降り注ぎます。芝川のポプラも工事から保護されて、風に吹かれています。工事が終了した土手には草が生え茂り、水際には浅瀬ができて始めました。桜並木の木陰で、鳥友達と語り合う夏の日が実に楽しい。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月21日(土) 午後3時～4時ころ  
会場：支部事務局 108号室

### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月22日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。  
交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:36発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、石光、山田(義)、山口

見どころ：真夏は鳥の少ない季節ですが、5月とほぼ同じ種類が居るはず。暑さに負けなければきっと見つけることができます。帽子と飲み物を忘れずに、元気な身体でご参加ください。



ホオジロ(久保田忠資)

### リーダー研修会(要予約)

期日：9月2日(日) 午前9時15分～午後4時45分(受付開始午前9時より)。

会場：埼玉県自然学習センター(北本市荒井5-200 Tel:048-593-2891)

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス8:31、8:47にて「自然観察公園」下車。

申し込み：初めてリーダー研修会に参加される方は往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記して、橋口長和( )へ。8月25日まで。

ご注意：役員・リーダーの方も、電話またはメール等で、必ず事前に参加申し込みをお願いします。

参加資格：探鳥会や、支部活動にリーダーとして協力できる支部会員。

ご案内：当支部は、探鳥会の運営をはじめ全ての支部活動を会員のボランティアで行なっています。あなたの新鮮な力を支部活動に生かしてください。今日までの支部の足跡、活動の現況、リーダーの役割などを学び、皆で意見交換などをします。

その他：筆記用具をご持参ください。



## 行事報告

10月21~22日(土~日) 長野県 戸隠高原

参加: 31名 天気: 21=曇、22=晴

カイツブリ カルガモ コガモ ヒドリガモ キンクロハジロ トビ ノスリ オオタカ ツミ サシバ ハチクマ キジバト アオバト アオゲラ アカゲラ コゲラ オオアカゲラ ハクセキレイ キセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ノビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ マミチャジナイ ツグミ センダイム シクイ ウグイス キビタキ ムギマキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ クロジ アトリ カワラヒワ マヒワ イカル スズメ カケス ハシボソガラス (53種) H氏の携帯にムギマキの情報が入ったので、参道口からその場所に急いだ。植物園入り口でアトリの群れを見つけ、観察しているとすぐそばにムギマキの雄成鳥もいた。今回の目的の一つを難無く達成してしまった。その後、お目当ての場所のツルマサキにムギマキ、マミチャジナイ、アオゲラも見られ、後は、余裕で戸隠の秋を満喫した。翌朝も植物園でマヒワ、カシラダカの群れ、ムギマキを見て、キャンプ場へのバスを待っていると、タカが渡り始めた。ノスリがほとんどであるが、遅れ組のサシバ、ハチクマも混じっていた。ここで渡りを見るのは期待していなかったので、全員で興奮してしまった。キャンプ場で昼食のきのこ汁を堪能した後、キャンプ場内を探鳥。ツグミ類の大群を見つけてまたまた大騒ぎ。53種は秋の戸隠の新記録。(菱沼一充)

10月29日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 61名 天気: 曇

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ ミサゴ ハチクマ トビ ノスリ チュウヒ キジバン オオバン シラコバト キジバト カワセミ アリスイ アカゲラ

ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス オオヨシキリ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (49種) ロードレース大会とバッティングしてルートを変更した。それが幸いしてか、いつものコースでは見られなかったアリスイや来たばかりのジョウビタキ、ツグミに出会った。上空にはハチクマまで現れ、いつもお楽しみの渡良瀬であった。(橋口長和)

1月21日(日) さいたま市 三室地区

参加: 68名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ オカヨシガモ オオタカ ハイタカ クイナ バン イカルチドリ イソシギ セグロカモメ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 年の初めに見沼田んぼで鳥見をするのが嬉しい。天気も良くて全員が探鳥会を楽しんだ。オオタカが空を飛び、ゆっくり生きようと飛翔する。シロハラ、アカハラ、アオジがひっそりと地面で餌を啄ばむ。今年も仲良く楽しむ三室へどうぞと鳥たちは呼んでいた。(楠見邦博)

1月28日(日) 狭山市 入間川

参加: 35名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ トビ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 探鳥コースの河原にはたいがいイカルチドリがいる。記録にないときでも、多分どこかにいる。今回は、みんなで見る事ができた。最初は5~6羽。ほかの人が数えると8

羽。今度は10羽、11羽とどんどん増えていく。ほんとは何羽いたのだろうか？ 数を数えるだけでも楽しくなってくる。身近な鳥たちも楽しみ方はたくさん。  
(長谷部謙二)

2月3日(土) 狭山市 智光山公園

参加：48名 天気：快晴

コサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ トビ オオタカ コジュケイ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 集合場所から真っ白な富士がくっきり見え、幸先よい気分スタート。この冬各地で記録されているウソが当公園にも出現。この日も色鮮やかなアカウソを全員がじっくり観察できた。他にもルリビタキ、カワセミ、キセキレイ等、色が魅力の鳥が出揃い、上空にはオオタカが悠然と舞ってくれて、年1回の当地での探鳥会を盛り上げてくれた。  
(石光 章)

2月4日(日) 嵐山町 菅谷館・都幾川

参加：38名 天気：快晴

カワウ ダイサギ トビ チョウゲンボウ イカルチドリ クサシギ キジバト カワセミ アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソ イカルシメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 風が強くて、ちょっと不安。スタートしてすぐウソ♂♀各3羽が出てホッとす。でも皆冷静。昨シーズンだったら大騒ぎだった。ヒガラ、アオゲラをじっくり見て、河原ではクサシギ、イカルチドリ、カワセミのホバリング、仕上げはチョウゲンボウの飛翔。北風はますます強くなったが、暖かい心で帰路に。  
(新井 巖)

2月4日(日) 北本市 石戸宿

参加：68名 天気：晴

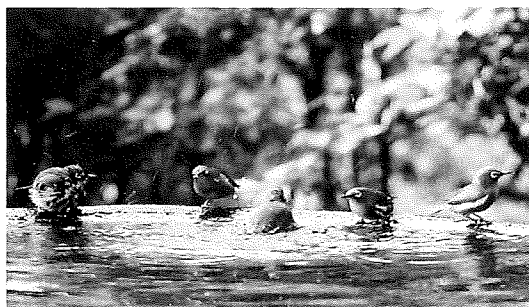
カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガ

モ コガモ トビ オオタカ コジュケイ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カヤクグリ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ コガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ ベニマシコ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (44種) 北風が強く吹いていたが、快晴で日向の林内はボカボカだった。沢山の参加者に合わせて、出現鳥も盛り沢山。アトリの群れは久しぶり。ここでは、人と野鳥の距離が縮まっているようだ。エナガの群れは近過ぎて双眼鏡に入らず、肉眼で楽しんだ。カシラダカも園内の観察路に出てきて盛んに採餌。直ぐそばまで近づいても一向に逃げる気配がなかった。人も野鳥も自然の仲間！ こんな関係が広がり、いつまでも続くと良いですね。  
(浅見 徹)

2月4日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：44名 天気：晴

カワウ コサギ カルガモ コガモ チョウゲンボウ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ベニマシコ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 差間コースは工事中で、ヘルシーロードコースに変更。北風が冷たく強い1日。風の中、鳥達は姿を見せては藪の中へ。リーダー泣かせの探鳥会だったが、同じボケの植木畑で昨年4月、12月、今回とベニマシコが見られたことが救いとなった。  
(手塚正義)



メジロ(松村禎夫)



シジュウカラ (新井 巖)

## 連絡帳

### ●平成 18 年(2006 年)度全国の会員数

本部会員室から各支部に送られてくる『支部ネット通信』第 38 号(2007 年 5 月号)によれば、

#### 1. 会員減少は依然続く

18 年度の新入会者は 2,114 人、退会者は 3,120 人。年度末会員数は 45,023 人、前年度末-1,001 人。7 年連続減少でした。

#### 2. 新入会者は微増

わずかですが、前年度より 33 人増加しました。

#### 3. 道府県別伸び率

1 位が沖縄県+5.26%(+8 人)、最下 47 位が愛媛県-7.40%(-31 人)。埼玉県は 23 位-2.01%(-56 人)でした。

#### 4. 支部別伸び率

1 位が小清水支部+50.00%(+2 人)、最下 89 位は函館支部-16.00%(-16 人)。埼玉県支部は 48 位-2.47%(-57 人)でした。

なお、会員数そのものでは、東京、神奈川、大阪に続き、埼玉県支部は 4 位です。

#### 5. 都道府県別組織率

都道府県の人口に対する会員数の割合では、1 位が東京都 0.055%、最下 47 位が沖縄

県 0.012%。埼玉県は 10 位の 0.039%でした。

### 6. 男性の比率は依然高い

年齢別では 50~69 歳が最も多く、男性が女性の 2 倍以上である状態は続いています。

### 7. 支部型会員の比率が上昇

10 年前と比較すると総合会員は 11.6 ポイント減少して 42.2%、支部型会員は 6.0 ポイント上昇して 20.1%でした。本部型会員は一時比率減少の傾向がありましたが、最近は高くなる傾向に変わっています。

### ●事務局の予定

7 月 7 日(土) 編集部・普及部・研究部会議

7 月 14 日(土) 8 月号校正(午後 4 時から)。

7 月 15 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

7 月 21 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

### ●会員数は

6 月 1 日現在 2,247 人です。

## 活動報告

5 月 12 日(土) 6 月号校正(海老原美夫・大坂幸男・佐久間博文・志村佐治・山部直喜)。

5 月 20 日(日) 役員会(司会:田中幸男、総会準備・探鳥会規定の見直し・その他)。

5 月 21 日(月)「支部報だけの会員」に向けて 6 月号を発送(海老原美夫)。

5 月 26 日(土) 理事懇談会(意見交換会)・理事会・評議員会・懇親会に出席(海老原美夫)。評議員会・懇親会に出席(橋口長和)。27 日(日) 理事懇談会に出席(海老原美夫)。

## 編集後記

とにかく 4 月の三宅島探鳥会はよかった由。今月 24 日の総会には、その時のビデオが放映され、お世話になった山本裕レンジャーの講演をいただく。山本さんには、2001 年 10 月号で『三宅島 2000 年噴火とエコツーリズム』の原稿も寄せていただいている。改めてお礼をしなくてはと思っている。(山部)

しらこぼと 2007 年 7 月号(第 279 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

http://35.tok2.com/wbsjsaitama/

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙使用。印刷 関東図書株式会社